

ダイネツ商事株式会社

41 期 環境経営レポート 2025年度

(対象期間： 2024 年10月1日～ 2025 年9月30日)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

作成日： 2026年1月26日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ・会社方針・品質方針	3
環境経営方針	4
組織の概要	5
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績	7
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価及びカーボンニュートラムに向けたわが社の取り組み	8～12
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	13
緊急事態対応訓練	13
代表者による全体の評価と見直し・指示	14
今後の活動展開	14



口ごあいさつ

ダイネツ商事はダイネツグループの一員です。先代より引継ぎ私で2代目になります、2024年10月で41年を迎えた会社です。創業当初は普通鋼の切断加工と月に数十トンの鋼材販売で始まり、競合他社が嫌がる安価で手間取る仕事を根気よく継続してまいりました。その継続の結果お客様からの信頼を得て、大きな案件を頂くまでになりました。まさに「点滴穿石」により、お客様の心に届いた結果と考えています。

時代の変化と顧客ニーズに対応しながら設備投資などを行い様々な鋼板加工技術を蓄積し、作業者のスキルアップ徐々に図れ大きなことを成し遂げる力となる会社となってまいりました。

当社は住宅関連の比率が大きく、加工部材は通常は見えない部分の躯体部の重要なところを製造しています。重要部材であればあるほどその精度は厳格であるため、それに応えるためには品質強化・社員の技術力強化が必要です。

創意工夫、技術の向上等、個々がさまざまな役割の中で挑戦し、社内の連携で社員同士が理解を深め、支え合い、高め合える機会を提供することが私の役割です。

今後も社員全員が生きがいを持って働ける会社を目指してまいります。

代表取締役社長 山原 圭三

I. 会社方針

- 1.安全な作業場作り
- 2.安心して仕事ができる環境作り
- 3.安定した経営作り

制定：2022年12月1日

代表取締役社長 山原 圭三

II. 品質方針

ニーズにあったコストと品質を提供し、顧客満足を得る

当社は、顧客満足を得る製品実現のため目標を設定して、品質マネジメントシステムを有効に活用し、継続的に改善します。

【基本方針】

- 1、より良いものづくりのため、現状に満足せず継続的改善を行います。
- 2、社員の能力・技能レベルアップのため、教育・訓練を実践します。
- 3、当社の「品質」とは各グループの活動内容を活性させることである。
- 4、不具合発生時は、徹底的に掘り下げて、真の原因を究明する、真の原因究明が出来なければ、有効的な対策はできない。

制定：2017年6月20日

代表取締役社長 山原 圭三

環境経営方針

<環境経営理念>

《基本理念》私たちは、自社の行う事業活動の全域で、二酸化炭素削減に向けた“地球環境保全への たゆまぬ配慮”に努め、品質・価格・納期と同様 《 自然と環境に優しく 》 をモットーに、日々環境活動に取り組みお客様から信頼される企業を目指し、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

<環境保全への行動指針>

《基本理念》の実現の為、下記「環境目標」を設定し、自主的・積極的・継続的な取組を図ります。また、環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

1. 節電の推進で二酸化炭素排出量を削減します。
2. 車両のエコドライブ等に努め二酸化炭素排出量を削減します。
3. ロスを最小限に抑え、材料を有効に活用します。
4. 廃棄物の削減を図るため有効利用を検討し、環境負荷の軽減化に努めます。
5. 水使用量の削減に努めます。
6. エコアクション21等の環境への取組を通して環境負荷低減を図り、企業価値向上を目指します。
7. 環境経営方針の周知徹底を含め、環境学習を通じた社員全員の環境意識の向上を図ります。



制定日：2005年1月5日

改定日：2022年12月1日

代表取締役社長 **山原 圭三**

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
 ダイネツ商事株式会社
 代表取締役社長 山原 圭三
- (2) 所在地
 本社・堺浜工場 大阪府堺市堺区匠町17-7

- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 責任者 総務部長 木田 和匡 TEL：072-227-1431
 担当者 総務部 新里 莉子 TEL：072-227-1431

- (4) 事業内容
 住宅部材を主体とした金属加工品の製造・販売

- (5) 事業の規模
 売上高 8,585 百万円
- | | | |
|-------|----------------|---------------------|
| | | 本社・堺浜工場 |
| 従業員 | 名 | 49 名 |
| 延べ床面積 | m ² | 5600 m ² |

- (6) 事業年度 10 月 1 日 ~ 9 月 30 日

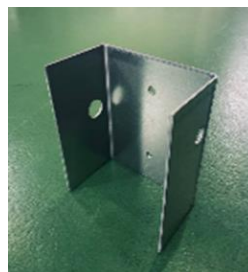
□認証・登録の対象組織・活動

- 登録組織名： ダイネツ商事株式会社
 対象事業所： 本社・堺浜工場
 対象外： 全社対象範囲
 活動： 住宅部材を主体とした金属加工品の製造・販売

□事業や製品(商品)の紹介

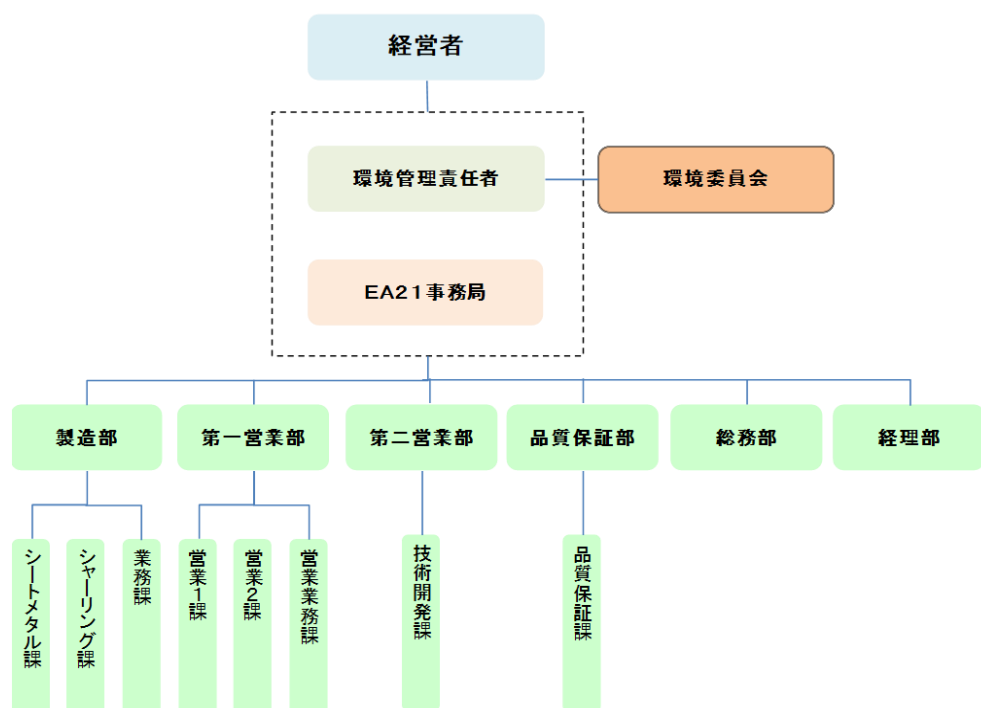
鋼板の販売・加工に事業展開するために、商社としての機能と自社工場での加工も行っています。

主に住宅関連部材の加工及び販売を行っています。



□有資格一覧

- ・ 振動関係公害防止管理資格
- ・ 騒音関係公害防止管理資格
- ・ 第一種衛生管理者
- ・ 第二種電気工事士
- ・ プレス機械作業主任者
- ・ クレーン運転の業務に係る特別教育
- ・ 玉掛技能講習
- ・ フォークリフト運転技能講習
- ・ 安全管理者選任時研修
- ・ 防災管理者講習
- ・ ガス溶接技能講習
- ・ アーク溶接特別教育
- ・ I S O 9001 内部品質監査員養成講習
- ・ 品質管理検定
- ・ 仮設工業会品質管理責任者講習
- ・ 産業用ロボットの教示等特別教育



《役割・責任・権限表》

■代表者（経営者）

1. 環境管理責任者他必要な責任者を任命する。
2. 環境経営システム構築・運用・維持に必要な経営
3. 環境経営に関する基本理念・基本方針を制定し、基本的な環境目標を設定する。
4. 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、方針・目標等システムの見直し・改訂を指示する。

■環境管理責任者

1. 環境経営最高責任者を補佐し、環境経営システムの構築と運用を図る。
2. 環境経営に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図る為、環境経営推進委員会を運営する。

■部門推進責任者

1. 自己の管理範囲内に於いて、全員参画に依る環境経営システムの運用及び管理に責務を負い、部門内の必要な人材育成、パフォーマンスの向上を図る。
2. 他部門推進責任者との連携を密にし、特に共通取組事項については積極的にその整合・推進を図る。

■各課推進責任者

1. 部門推進責任者の命を受け、環境経営システムの運用及び管理を行う。
2. 具体的活動施策の立案・推進に当たっては、副推進責任者と充分協議し、その指導に当たる。

■活動計画担当者

1. 各部門の「環境経営項目」決定後、該当項目について、毎月実績把握及び差異分析を行う。
2. Q及び年間の総括時（「環境委員会」）には、その内容をコメントとしてまとめる

■全従業員

1. 「環境経営方針」を理解し、「環境経営活動」の策定・実施にあたって、活動計画担当者の要請がある場合は協力する。
2. 日常活動においては、エコアクション21の推進に自主的・積極的に取り組む。

■環境委員会

1. 4半期に1回実施担当者以上を招集し、活動状況及び目標達成報告を受けて是正が必要と判断すれば是正指示を促す。

□主な環境負荷の実績

項目	単位	39期	40期	41期
		2022.10.1～	2023.10.1～	2024.10.1～
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	159,349	96,007	87,602
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	2,264.00	1,866.60	1,175.64
産業廃棄物排出量	kg	10,770.00	7,750.00	6,300.00
水使用量	m ³	676	396	382

※廃棄物排出量には再資源化を含む。

※化学物質は使用していません。

※0.235kg-CO₂/kWh (2024年度 オリックス(開示数値))

□環境経営目標及びその実績

項目	年度	基準値 (基準年)	41期		評価	42期	43期
			2024.10.1～			2025.10.1～	2026.10.1～
			(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減 (事務所棟)	kg-CO ₂	25,644	5,642	4,928	○	4,872	4,103
	基準年度比	38期	22.0%	19.2%		19.0%	16.0%
原単位 1、3Q原単位 (秋、春：電力負荷小)	kWh/日	211.93	189.68	193.66	×	190.74	182.74
	2、4Q原単位 (冬、夏：電力負荷大)	kWh/日	265.37	237.51	257.79	×	237.51
電力による二酸化炭素削減 (工場棟)	kg-CO ₂	91,098	68,323	27,924	○	63,768	59,214
	基準年度比	38期	75.0%	30.7%		70.0%	65.0%
原単位	kWh/点数	2,330	2,090	2,280	×	2,287	2,266
自動車燃料による二酸化炭素削減【ガソリ】	kg-CO ₂	40,196	39,593	32,760	○	39,392	39,191
	基準年度比	38期	98.5%	81.5%		98.0%	97.5%
原単位	km/ℓ	16.04	16.28	17.96	○	16.36	16.44
自動車燃料による二酸化炭素削減【軽油】	kg-CO ₂	24,997	24,747	21,876	○	24,497	24,247
	基準年度比	38期	99.0%	87.5%		98.0%	97.0%
原単位	km/ℓ	6.54	6.90	7.59	○	6.93	6.97
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	181,936	138,305	87,488		132,530	126,755
事務所棟一般廃棄物の削減	kg/月	122.3	110.7	98.0	○	110.1	109.5
	基準年度比	28期	90.5%	80.1%		90.0%	89.5%
工場棟一般廃棄物の削減	kg/月	25.4	24.7	18.5	○	24.5	24.4
	基準年度比	36期	97.0%	72.8%		96.5%	96.0%
製造部スクラップ発生率 (シャーリング課)	%	7.52%	7.22%	6.49%	○	7.20%	7.18%
	基準年度比	34期	96.0%	86.3%		95.7%	95.4%
小梁受ピーススクラップ発生率 (シートメタル課)	%	18.0%	17.5%	16.2%	○	17.4%	17.3%
	基準年度比	38期	97.0%	89.7%		96.5%	96.0%
水道水の削減	ℓ/人・月	721	714	629	○	710	707
	基準年度比	39期	99.0%	87.3%		98.5%	98.0%
企業価値向上	行動目標(次項による)						

※都市ガスは少量のため削減目標としていません。

※一般廃棄物は焼却可燃物を削減目標の対象としています。

※原単位 日：稼働日数 個：出荷個数 スクラップ発生率＝スクラップ重量/材料重量

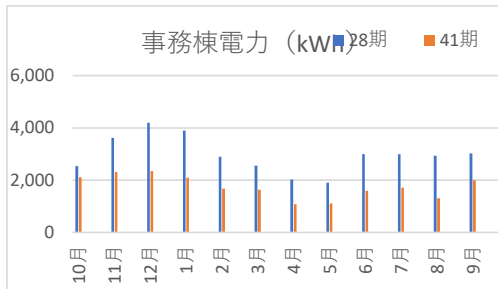
※各項目の目標値は注釈ない場合は平均値を表す。

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標:○達成 ×未達成

活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減(事務所棟)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	41期は3Qのみ目標達成となりました。
会議室及び応接室等の消し忘れパトロールの実施	△	近年の気温上昇によって、室外機の稼働が増加していることが目標未達成の大きな要因となっています。
事務所内における昼休み消灯の実施	○	42期では、目標を適切な値に変更し活動展開しながら目標値の適正化を確認いたします。
年間電力量の掲示	○	活動に関しては新たな項目を模索致します。
ブラインドやカーテンの利用などにより、熱の出入りを調節	○	
昼休みにおける使用空調機の節電の実施	○	
消灯忘れ発見時は翌日のミーティングにて注意喚起を促す。	○	
空調機タイマー設定	△	
夏季における軽装(クールビズ)、冬季における重ね着(ウォームビズ)など服装の工夫をして、冷暖房の使用を抑える	○	



取組紹介欄【事務所棟使用量を日々チェック】



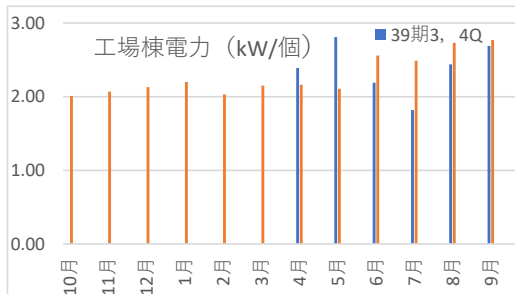
複合機3台⇒1台に変更



3Dプリンターの電力使用量

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
28期	2,533	3,614	4,198	3,896	2,892	2,561	2,025	1,901	2,991	2,991	2,931	3,026
41期	2,108	2,309	2,350	2,094	1,677	1,632	1,076	1,111	1,597	1,717	1,307	1,992

電力による二酸化炭素削減(工場棟)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	前期と比較し、電力使用量が年間で15,426kWh減少したものの、出荷点数の減少の影響が大きく目標達成することができなかった。現在の指標(原単位)では出荷量の影響が大きく活動の影響が寄与されない、来期は基本に帰って電力量の削減に注力いたします。
使用していない箇所の照明は消すようにする。	○	活動としては今期同様に消し忘れ防止などに力を入れ、無駄な電力を使用しないようにしていきます。
休憩時はマシンのモーターをOFFにする。	○	
残業時間の平準化を行い最終稼働時間を早くする。	△	
退社時にパソコンの電源を切る。	○	
デマンド管理を行い、注意報、警報発生時の対処法を決める。	○	
タレパン加工の見直しを行い加工効率を向上させる。	○	



取組紹介欄



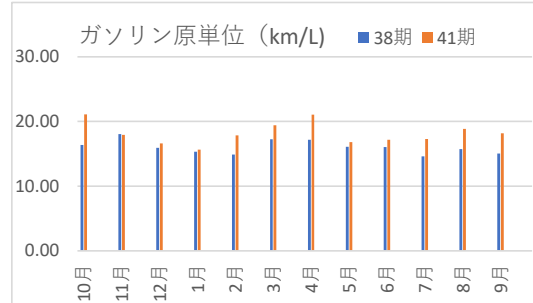
使用しないSWにはカバーを設置



掲示啓蒙活動

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
39期3, 4Q	-	-	-	-	-	-	2.39	2.81	2.19	1.82	2.44	2.69
41期	2.01	2.07	2.13	2.20	2.03	2.15	2.16	2.11	2.56	2.49	2.73	2.77

自動車燃料による二酸化炭素削減【ガソリン】	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	3Qは目標値106.9%18.03km/ℓで目標値を超えることが出来た。5月からACを使いだし燃費が悪くなる季節に入るが運転する人が省エネ運転を心掛け目標値を達成したい。 41期は4Q全てA評価となった。しかし月別で見ると12月だけが目標値を僅かであるが達成出来なかった。 来期は全ての車がHV車になり動向を観察しながら目標値変更も行う。
空気圧チェック、タイヤ目視確認 1回/月 測定記録を月末に確認し空気圧±0.5 k g 場合適正値にする。	○	
各車運転日報に燃費、空気圧の目標数値を記載	○	
月末に不要な荷物を積んでいないか確認し積んでいけば直ちに解消する	○	
オイル、エレメント交換を5,000 k m毎に交換する。	○	
冬場、窓が曇らない様外気を取り入れACの使用はしない。	○	
ハイブリット車を優先して使用する。	○	
オイル、エレメント交換、各種交換整備を東和自動車工業からオートボックス三宝店に6月より変更する。	○	



取組紹介欄



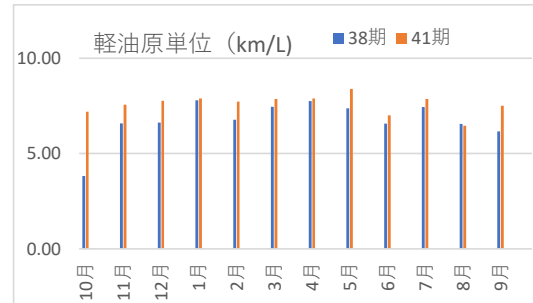
社用車全車HVに変更



タイヤ空気圧チェック継続

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
38期	16.36	18.04	15.92	15.33	14.89	17.27	17.16	16.09	16.06	14.62	15.71	15.06
41期	21.09	17.92	16.63	15.63	17.85	19.43	21.06	16.82	17.18	17.29	18.86	18.19

自動車燃料による二酸化炭素削減【軽油】	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	41期では8月のみ目標未達成となりました。41期全体の車両別の燃費実績は、3t車:8.21km/ℓ、4t車:7.02km/ℓとなり、目標達成することができ、また前期と比較しても燃費を向上させることができました。今期は推進委員だけでなく、業務課とも一丸となって活動を行うことができました。来期も業務課との意見交換を積極的に行っていきたいと思います。
配達ルート効率化によるCO2排出量の削減。	○	
各車両内に「アイドリング停止」を啓発する掲示および毎月の燃費・走行距離・目標値の掲示を行う。	○	
タイヤの空気圧点検を1回/月行う。	○	
定期的にオイル交換（エンジンオイル・ミッションオイル）を行う。	○	
1Q毎に3t車、4t車のフィルター（エアコン・エア）の清掃を行う。	○	
向け先別での燃費調査を行う。	○	



取組紹介欄



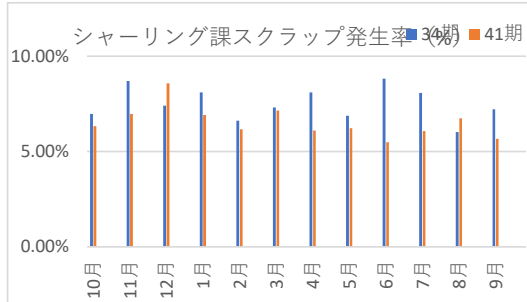
フィルター清掃



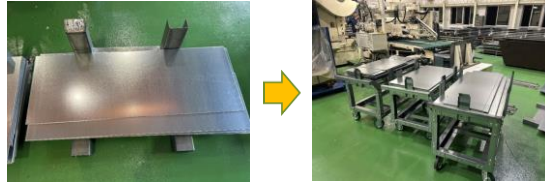
配達ルートに関する会議

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
38期	3.82	6.58	6.62	7.79	6.78	7.45	7.75	7.37	6.57	7.44	6.56	6.16
41期	7.19	7.56	7.76	7.89	7.72	7.86	7.89	8.39	7.00	7.86	6.46	7.51

製造部スクラップ発生率(シャーリング課)		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		○	41期は12月のみ目標未達成でした。1.2Qでは、残材幅の見直しや残材置場の現状把握を行い、3.4Qでは残材台車を作製し、残材使用効率を向上させることができました。42期もトップ・エンドや残材を積極的に使用していく活動を継続し、新たな活動として鉄バンドの削減を進め、目標達成できるようにしていきたいと思ひます。
スリットコイルのトップエンド内での良品の選別。		○	
在庫母材の変更による歩留まり向上		○	
歩留り推移グラフを作成し掲示する。		○	
クレーム・加工ミス削減による不良品の削減。		○	



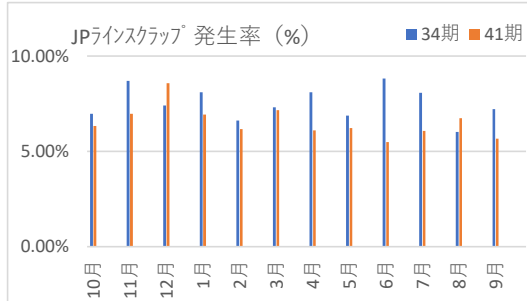
取組紹介欄



残材使用の円滑化を図るため直ちに使える様に台車移動方式に変

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
34期	6.97%	8.70%	7.40%	8.10%	6.62%	7.31%	8.10%	6.88%	8.82%	8.08%	6.02%	7.21%
41期	6.33%	6.97%	8.58%	6.92%	6.17%	7.16%	6.11%	6.23%	5.49%	6.07%	6.74%	5.66%

小梁受ピーススクラップ発生率(シートメタル課)		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		○	4Qは、全ての月で目標達成できました。2Q,3Qでは20kgを超えた月もありましたが、4Qでは全ての月が20kg未満に収まりました。8月はお盆休みもあったことで、一番少ない重量になりました。梱包紙の再利用では、合計85枚使用されました。10月から新しいサイズの梱包紙も追加したので、さらなる梱包紙の再利用ができるかと思ひます。
スリットコイルのトップエンド内での良品の選別。		○	
金型メンテナンスによる不良品発生抑制の抑制。		○	
歩留り推移グラフを作成し掲示する。		○	
金型ボルトの破損頻度(本/個)の調査を行い、事前交換を行う。		○	

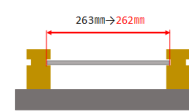


取組紹介欄



コイル幅変更試加工

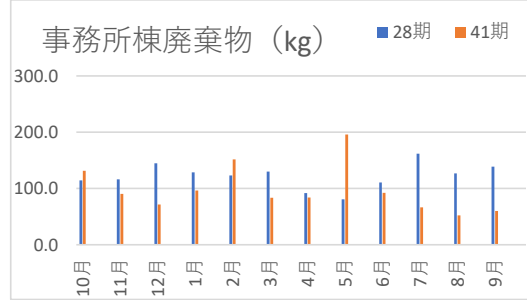
試加工結果
262mm: OK 261.5mm: OK 261.5mm: NG



試加工結果

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
38期	-	-	-	17.9%	19.5%	18.9%	17.8%	13.5%	18.0%	17.5%	18.5%	19.8%
41期	16.1%	16.3%	16.5%	16.0%	16.0%	16.0%	16.1%	15.9%	15.9%	16.3%	16.1%	16.3%

事務所棟一般廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		○	目標廃棄量月110.7kgに対して年間の平均廃棄量が月98kgと目標を達成できました。11月から担当が変わり約1年間活動を続けてきましたが、今期は以前から取り組んでいた活動の効果の蓄積や納品書請求書の電子化等の影響で確実に総廃棄量事態が減ってきていると感じています。42期については新規活動に加え、目標値の見直しも視野に入れて活動を継続していきます。
裏紙の再利用		○	
コピー用紙使用枚数の把握(コピー用紙の削減) ※注力		○	
出荷依頼書などPDF活用を進め、コピー機の使用		○	
廃棄紙・不要カタログなどをリサイクルセンターに持って行く		○	
事務所廃棄物の分別方法を掲示する。		△	
紙管廃棄方法の模索 → CCへ返却再利用		△	
不要FAXの停止		△	



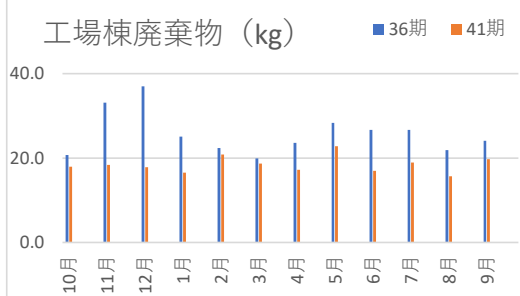
取組紹介欄



事務所内書類を積込⇒リサイクル業者へ

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
28期	114.5	116.1	144.6	128.5	123.2	130.2	91.6	80.7	110.6	161.8	126.8	139.0
41期	131.6	90.2	71.4	96.4	151.7	83.6	84.0	196.0	92.3	66.4	52.0	60.1

工場棟一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	41期は全ての月で目標達成することができ、前期比で6.3%削減(17.4kg削減)することができました。活動として廃プラの再利用を積極的に行ったことで、重量を減らすことができました。しかし廃棄ゴミでは前期より重量が増加しており、ゴム手袋の改善を行っていましたが、結果に結びつくことができませんでした。来期は廃棄ゴミに注力して活動を進め、更なる削減に繋げていきたいと思ひます。
廃棄段ボールの再利用による廃棄ゴミ排出量削減。	○	
PPバンドを再利用し、廃プラの排出量を削減。	○	
社内で扱っているもの以外はバクッタンに入れない。	○	
ゴミ袋の中身だけを捨てる。	△	
ラベルの台紙をリサイクル。	○	
加工マシンや加工内容によるゴム手改善の検討。	△	



取組紹介欄



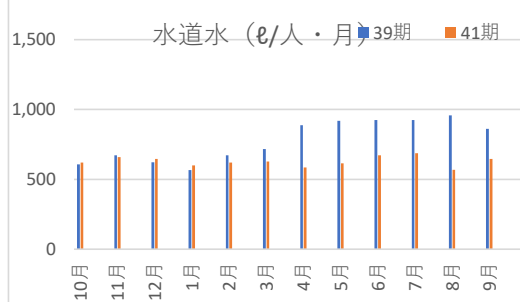
PPバンドの再利用



梱包紙の再利用

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
36期	20.7	33.1	37.0	25.1	22.4	19.9	23.6	28.3	26.7	26.7	21.9	24.1
41期	17.9	18.4	17.8	16.5	20.8	18.7	17.2	22.8	17.0	19.0	15.7	19.7

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	ほぼ全ての月で目標数値を達成する事ができ、前期と比較し11m3削減することができました。活動としても、水道マップでの現状の調査や水量の調整、雨水の再利用など活動的に進めることが出来ました。来期も節水の意識を向上させることのできるよう目標を達成させていただきます。
節水意識を高める為、毎月の使用量と金額およびQ毎に水に関する掲示を行う	△	
コンプレッサーの水漏れチェックを行う。	○	
トイレ掃除の節水方法の検討(雨水利用)	○	
毎日の水道メーターチェック(営業部)	○	
散水機周りの植栽整備年2回(2Q4Q)実施(営業部)	△	
事務所電熱器の水漏れチェック	△	
マシン作業効率向上による作業時間の削減。	○	



取組紹介欄



洗浄機によるトイレ掃除

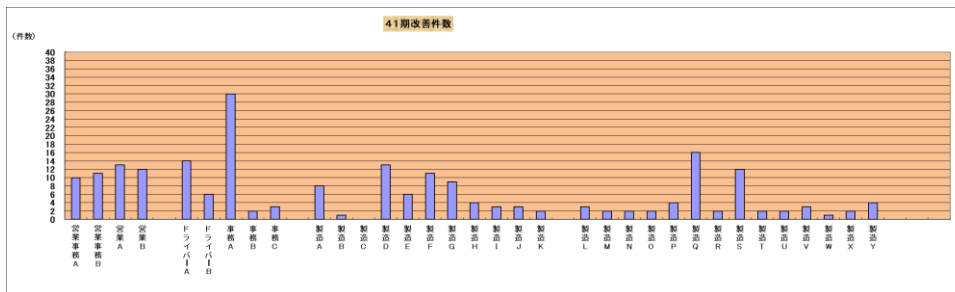
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
39期	608	673	623	566	673	717	887	920	925	925	958	862
41期	620	660	647	600	620	627	585	615	673	686	569	647

【企業価値向上】

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
OJT教育を1回/月行う。	○	前期とほぼ同じ活動内容で全ての項目で実施する事が出来ました。来期も同様に今期の見直しを行い、来期も計画を立てて活動・実施を行っていきます。
品証による定期巡回	○	
品質会議による周知徹底	○	
改善提案による効率改善	○	
5Sの推進による導線改善	○	
設備メンテ計画の立案及び実施	○	
始業前設備点検及び月間設備管理	○	

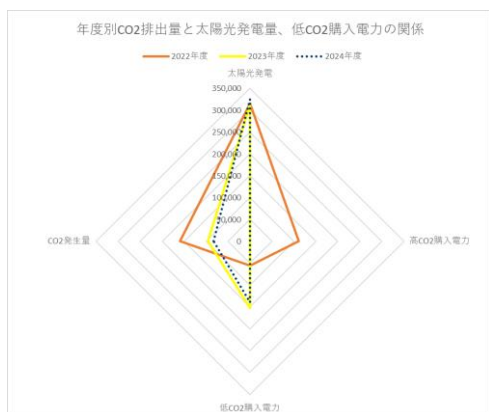
取組紹介欄

提案件数: 218件 前期比: 105% 年間削減時間: 733.9時間

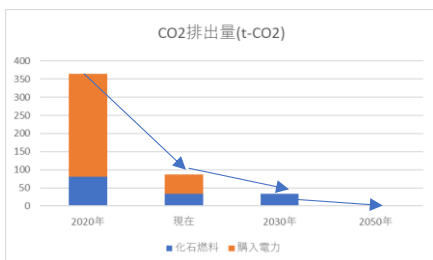


社会的課題を解決する取り組み	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
当社の二酸化炭素推移揭示 (40期月平均 8,030kg-CO2)	○	年間目標500kgのCO2削減に対して474kgと僅かに届かなかった。夏場の猛暑が大きな要因である。在庫に関しては2回120%を下回る月があったがやはり120%に抑えるのはかなりハードルが高かった様と思う。42期は太陽光リプレース、購入電力二酸化炭素係数0.000kg-CO2/kWhとCO2排出量に大きな影響を与えるアクションを行うので、その後の影響性を見極めたいと思います。
太陽光システムリプレースの検討	△	
28期ソーラ発電比 (29,222 kWh)	○	
在庫の圧縮 (目標在庫率120% 売上重量比) ※40期平均153.3%	△	
購入電力のCO2削減	△	
公共交通機関を使っでの営業活動 (500kg/年のCO2削減)	○	

カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み



2022年度	2023年度	2024年度
314,612	312,843	324,553
111,107	0	0
55,369	152,177	139,795
159,349	96,007	82,673



単位: t-CO2

	化石燃料	電力	対策
2020年	80	285	太陽光パネル考慮せず。
現在	33	54	CO2係数低い購入電気+公共機関+太陽光発電
2030年	33	0	太陽光発電リプレース+購入電力CO2「0」切替
2050年	0	0	省エネ+太陽光発電+電気自動車+再エネ電力

当社のカーボンニュートラルに向けた取り組みとしては、昨年同様に「排出量」を減少させることを重点いたします。

①購入電力を低炭素化を推進する。

現在非化石比率50%を2026年には「0」に変更いたします。

②再生可能エネルギーの有効活用を行います、経年劣化により発電効率が低下傾向の太陽光発電システムを、2026年までにリプレースいたします。

③化石燃料低減のため社用車をハイブリット車に全台入替

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ、廃油等）
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機
顧客要求事項	品質管理 マネジメントシステムの運用

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

なし。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2025/11/8	■実施場所 事務所棟、工場棟、工場外周
■参加者： 社員全員	
<p>■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/>怪我人搬送 <input type="checkbox"/>消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/>避難訓練</p> <p>昼食時に地震発生が発生し、工場敷地内の避難場所に全員避難する、その後津波発生の情報を得て堺市指定の避難場所に避難する。</p>	
■評価：	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
<p>昨年に引き続き映像記録に注力するとともに、今年は新たに怪我人搬送の訓練も行った。例年の訓練の効果もあり、映像を振り返ってみても、スムーズに避難できたといえる。一方で、簡易担架や緊急連絡先の保管場所を明確にしたほうが良いという反省点もあった。→事務所内に簡易担架と緊急連絡先を置いて、明示もした。</p>	
■実施状況の様子	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2025年12月1日

＜評価と見直し結果＞

- ①環境経営方針：変更なし。
- ②環境経営目標：環境経営目標に記載
- ③環境経営計画：環境経営計画書の取組結果とその評価に記載
- ④実施体制：環境事務局を変更する。
- ⑤環境関連法規等の遵守状況：環境関連法規の取りまとめを行い、一覧を作成している。法規制の遵守を行っていることを確認した。
- ⑥その他環境経営システムに関する事項：毎月、社長自らが現場の安全確認などを確認している。

＜総括＞

- ・電力削減では製造部は原単位評価に出荷点数を用いた結果、折角の活動が出荷点数の減少の影響度が大きく目標未達となった、来期は活動が数値に反映する指標を望みます。営業部は基準値として13年前のデータを用いていたが、基準値の代表性がなく数値目標未達成となった。今後も代表性のある基準値に見直すべきと考える。
- ・燃料原単位の向上は社用車の空気圧の適正化の徹底を継続していることは評価できる。
- ・貨物車は効率の良いルートを運行をドライバー打合せを重ねて行い、実践している今後ともに継続して下さい。
- ・スクラップの削減に関しては「コイル幅の見直し」をどこまで可能か切り板にて事前テストを繰り返し極限にトライしたことは非常に評価できます、今後もよろしく願います。
- ・廃棄物の削減は大阪府では紙類が燃えるゴミに出せなくなったことで、紙類はリサイクル業者に持ち込みトイレットペーパー、ティッシュペーパーに交換し、購入備品削減の付随効果も出た。
- ・水資源削減は数値的には達成したが、達成手段の動きがまだまだ出来ると思いますので、来期は個々の意識改善につなげるような活動展開をお願いします。

【CO2削減活動】

- ・太陽光リプレース契約の締結：2026年3月稼働を目標に実施いたしました。今回のリプレースでは余剰電力は極力抑えて自社消費を目的とし、設計しました。来期効果をご報告いたします。
 - ・購入電力のCO2係数「0」に切り替え現在は約50%はCO2混入していますが、今後(2026年4月)からCO2「0」となります、これも来期ご報告いたします。
- 上記アクションは当然のことながらコストアップになりますが、環境経営を取り組む企業としての責務として決断致しました、これで満足せずこれからもCO2削減に邁進いたします。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

□今後の活動予定

【太陽光システムのリプレース】

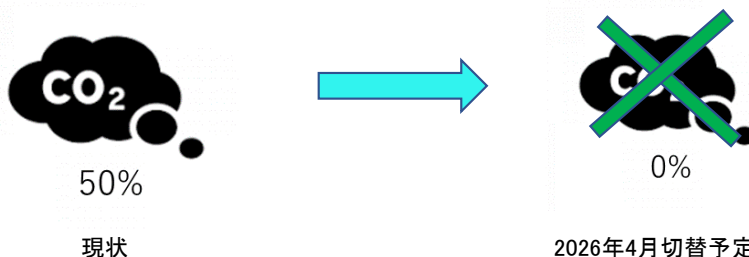


2026年12月着工太陽光リプレース工事中



太陽光リプレース後のパネル

【購入電力CO2係数「0」に切替】



□編集後記

今期も皆さんに助けられて、無事活動を終えました。振り返ってみるに、環境責任者という立場で実施責任者には上げ足取りのような発言ばかりのように思います。運営が円滑であったのは推進員、部門長の指導の賜物としたいと思います。考えて実行するのは皆さんですので、今後ともよろしく願っています。前期に引き続き、編集に苦勞するくらい多くの映像を残してください、ありがとうございます。今後とも継続願います。